



9・12月議会審議経過

九月定例会

昭和五十八年九月定例会は九月十九日に招集され、会期を二十八日までの十日間と定め

た後、市長より一般会計補正予算をはじめとする予算案六件、小浜市特別会計条例の一部改正について外条例関係四件、その

外六議案の提案理由の説明がなされ、議案に対する質疑を行なった後それぞれの案件を常任委員会に付託いたしました。

また二十一日・二十二日の二日間にわたり九名の議員が一般質問に立ち市政全般にわたり、市が当面する諸問題について市当局の見解をたしました。

二十三日より二十七日までを休会とし、この休会中に、先に所管の常任委員に付託された案件の審査を行ないました。

二十八日に再開された定例会は常任委員長報告・質疑・討論があり全議案を原案どおり可決いたしました。

十二月定例会

十二月定例会は十二月十四日に招集、二十三日までの十日間の会期で開かれ、昭和五十七年度小浜市一般会計歳入歳出決算外八件の決算認定の提案理由の説明が市長よりなされ、質疑の後決算特別委員会へ付託いたしました。

続いて昭和五十八年小浜市一般会計補正予算(第六号)外十五件の議案が提出され、提案理由の説明・質疑があり所管の常任委員会に付託いたしました。

また、六名の議員が一般質問に立ち幅広い論戦が行なわれました。十七(議案)、二(陳情)、四(人事案件)を可決、採択、同意して閉会した。

また収入役・教育委員会委員、人権擁護委員の人事案件を同意して、最後に国立病院・療養所の存続に関する意見書を可決して閉会した。



(小浜外港)

常任委員会

主な案件と質疑

総務常任委員会
市庁舎建設スケジュールの具体化に伴い総務常任委員は十一月十五日から十七日の三日間観音寺市・西条市・五十四年市庁舎竣工)北条市・五十四年市庁舎完成)の類似先進都市の庁舎規模・財源・事業等々細部にわたつての調査・研究視察を行ないました。

建設常任委員会
都市化と生活様式の変化とともにこれ以上の川、海の汚れを防止すべく七十五年を目標にした市街地の下水道計画が明らかになりました建設常任委員会は十月八日から三日間今治市・八幡浜市の公共下水道を中心に視察を行ないました。

産業経済常任委員会
いかにして機能的で住みやすい都市環境を整備し、商店街の活性化をはかることを目標に、白鷺通りの市街地再開発が進められており、産業経済常任委員会は十一月十六日から三日間山口市・大竹市の市街地再開発事業を重点に視察を行ないました。

教育民生常任委員会
田園・文化・観光都市を標ぼうする本市(議会)の教育民生常任委員会が街に当たり豊かな教育文化都市づくりに取り組み、国公立三重大学・私立二日か(三日間)公立・市立・私立(四校)短期大学を核に学園・文化都市を描いている松阪市と津市の視察を行ないました。

Q 勤労者の就業生活安定資金について、利用者も多いと聞くので、もっと増額することにより、最近話題となっているサラ金問題解決の一助になるのではないかと。
A 八月末で二・五三件の利用があるが今度の補正で市民の皆さんの期待に沿い得ることができると思う。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 案をねって、念には念を入れて後になってよくなったあとというふうな市庁舎を建設していただきたい。
A 公共下水道の六百mの汚水管を付設されるようだが場所について、また終末処理場予定周辺の地域住民との調整はできていないのか。
A 現在、各地区毎に説明会を開催中で、説明会が終わると果の事業認可をもらい、どこで工場の場所については、現在地が不適当だということであれば、別の場所が浮かび上がったのではないかと。

Q 地域の除雪事業補助金を昨年は六地域、今年は五地域というように聞くが地域はもう少しふやしてよく考えはないのか。
A 除雪は十丁なり十五丁の雪を除けられる機能をもった機械であることが前提となる。
現在では農業用トラクターを利用して、市のほうで燃料・保険を出してお願いしているのが実態である。
トラクターも二十馬力程度以上でないと除雪が不可能であり、また機械のない集落は機械から購入してもらわなければならないので、いまの制度の中で取り上げる事はできない。段々制度が認識されたと協力という姿で大きい機械に買い替えという集落の出てくることも考えられるので、そういうような意味で拡大をしてみたいと考えている。

Q 当初はA・B・Cの三段階、B二本立てから一律とした旨の提案がなされているが、これはどういふところに起因するのか。
A 当初はA・Bの二段階に分けていたが、県下では小浜市だけA・Bの二本立てになっているので、何とか一本化して僻地のくみ取り料が高つくことのないよう業者の理解を求め、理想とする一本化に御理解を賜わりたい。

Q 市庁舎が現在地に地下一階地上五階建ての規模で建設されるように仄聞するが進捗状況はどうか。
A 地下一階・地上五階建ての構想については決定していない。全国各市の新庁舎の視察を願う構想を固めていきたい。
場所については、現在地が不適当だということであれば、別の場所が浮かび上がったのではないかと。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

Q 貨物駅廃止のひとつの条件として金沢鉄道管理局に強く申し上げていただくことである。
A 現在の予定では工費は三千五百万円程度、二階建て、自転車、の収容台数は五百台程度、モーターバイク、スクーターも収容できる駐車場を財団法人日本自転車普及協会の補助をいただき設置をしたいと考えている。
Q 六十一年の三月に新庁舎が完成の予定ですが、市民の皆さんの負担にこたえる意味からも工事を早く進め、突りある庁舎建設を早くオープンしていただきたい。

また機械のない集落は機械から購入してもらわなければならないので、いまの制度の中で取り上げる事はできない。段々制度が認識されたと協力という姿で大きい機械に買い替えという集落の出てくることも考えられるので、そういうような意味で拡大をしてみたいと考えている。

Q 南川地区の区画整理事業がいよいよ着手されるようだが、多年の懸案である臨港線立体交差事業、また伏原地区の区画整理事業について。
A 伏原地区の土地区画整理事業、臨工線の工事も河口から着工される以前に何とか区画整理事業を生み出そうということいろいろ計画を作成し何十回と伏原地区に御相談をさせてもらつたが、国鉄小浜線・国道二十七号線・大宮地区に囲まれた狭い土地で、ここに幅広い都市計画道路が入るといふことで理想的な区画整理事業をするために普通一般の区画整理事業でなく補償金を出さねばならない逆の区画整理になるので話を継続して交渉をしている。
現段階では臨港線の都市計画道路ができた後、個人が共同施行の規模の小さい四・六mの道路、地元の方々に御理解いただける区画整理がいまままでの交渉の経過でも大体そういう意向なので、できれば簡易な道路をつくる程度の整理を検討していきたい。

また機械のない集落は機械から購入してもらわなければならないので、いまの制度の中で取り上げる事はできない。段々制度が認識されたと協力という姿で大きい機械に買い替えという集落の出てくることも考えられるので、そういうような意味で拡大をしてみたいと考えている。

また機械のない集落は機械から購入してもらわなければならないので、いまの制度の中で取り上げる事はできない。段々制度が認識されたと協力という姿で大きい機械に買い替えという集落の出てくることも考えられるので、そういうような意味で拡大をしてみたいと考えている。

市政の内容を聞く 一般質問



Q 広域防災を目的とした防災センターが大手町に完成したが、特に火災の場合に発生場所が市民に周知徹底がなされておらずこれが解消の方法として有線テレビ放送・同報無線等の設置が考えられるが設ける意思はないか。

A 一斉放送の設備をして、よりよい周知徹底をして進めていくことが消火活動にプラスになるかどうか。

特に過密地域・路地等の消火活動が思いにまかせないのが現状であり情報を流すのがいいのかわどか消防関係者の間で、もともたどという結論になっていない。もう少し静かに消火活動ができないかというのが課題となっている。

Q 観光都市として発展するために四季を通じて観光施設が必要であり、その一環として小浜城再建がでないか。

A 小浜の観光のシンボルとして小浜城復元はすばらしいことだが、資金の目的がどうしても立たない。

資金の見通しがつかないので消極的にならざるを得ないのが現状である。

Q 行政改革に対応する基本的姿勢について

A 行政と財政の改革は別個のものであり、改革・見直し・検討・研究をし、その自治体に即した住民の動きに対応していかなければならないが、基本的に

財政は最低の予算で最大の効果をあげる工夫・研究、行政は少ない人員であっても住民サービスの向上のためにどうして効率を高めていくか検討・対応しながら取り組んでいきたい。

Q 産業の振興について

A 観光が六十億・第一次産業が六十五億前後・特産品・伝統産業が四十億・工業等が四百億・商業が五百億・合計一千億の生産がある。

観光産業等はまだまだ伸びる要素があるので伝統産業共々力を入れ、企業誘致についても積極的に努力をしていきたい。

Q 区長会からの要望事項が六百六十四件あり、その大部分が建設、都市計画課の管轄で占められており、今年度の予算を見らると伸びがきわめて少なく来年度の先送りも大部分だと思いがその見直しについて。

A 建設関係で四百二十二件、都市計画関係で六十七件と、約七十四割を占めている。

六百六十四件の内、着工・完了という形で処理したのが二十八・五割となっており、区長さんのほうへはできないものはできない、時期を待っていただきたい件については時期を待っていただき調査・着工をさせていただくという中で最善の努力をもって処理をしていく。

Q 大飯原子力発電所の立地並み安全協定について

A 立地と隣接とは本質的に異なるので立地並みということにはむずかしい。しかし隣接という立場、しかも非常に近いといういろんな条件・理由を付して関西電力のほうへ改定方をお願いしているところである。

Q 公有地(特に公園)の管理維持について

A 公園については、特に清掃業務が多いわけで、それがための目的をもって管理公社を設立して努力をしている。

機械に詳しい、作業機器にも詳しい人を雇い入れたので機動的な機械的な面についても今後能力が上がっていくものと考え

Q 新年度(五十九年度)予算編成方針・新たな事業・従来方針の見直し等あるのかどうか。

A 基本的な方針としては、投資的経費については五十八年度を目安に、また経常的経費は五十八年度よりも三割程度削減をすることができないか削減というように課題・目標にしながら予算編成にあたりたい。

新新規のものについては緊急なものに限定する。国・県の事業が縮小・廃止されるものについては市も縮小、あるいは一応廃止するか研究・再度の精査をしていきたい。

事業内容の見直しについては、五十九年度に向けての大きな目標はすばらしい庁舎を完成して汗を流して建設したい。念には念を入れて、十分だと思いが、もう一回見直してみよう・考えてみよう・研究してみようという気持ちで予算編成を進めていきたい。

Q 青井ソフトボール場のナイター設備について

A 五十八年度にナイター設備ができなかったが、その費用の一部を工業再配置促進補助金で申請できないのか申請したが、五十七年度に補助金をいただき整備



をしてきたが、同一場所に補助金を出すということではできないということであるので五十九年度に何とかできないかというところで取り組んでいきたい。

Q 現在の図書館は昭和三十四年に建設されたものであり、改築(建設)計画について

A 第二次小浜市の総合開発計画の中で取り上げられていることでもあるので五十九年度に全館の四、五万人ぐらいの市営図書館の現状・規模・その他の施設を調査・収集して図書館協議会・教育委員会等々と相談をして、できるだけ早く第二次総合計画に組み入れられた図書館建設が実現するようつとめていきたい。

Q 鯉川の海水浴場の増設について

A 和田港の海岸環境整備事業で県の港湾課で施工してもらい五十八年七月に第一期工事(東区)が完成した。

また、第二期工事(西区)の完成時期については、全体計画で三十億円(第一期工事で十四億円)の事業であるので、残り十五・六億については現在の予算配分からいくと毎年二億円程度の事業費配分を受けており、単純計算をしても六・七年ないで完成しないのではないかと考えている。

Q 松くい虫の空中防除について

A 薬剤の空中防除については周囲の環境に特別な配慮を払わなければならない。

上中町で五十九年に空中防除を実施されるように聞いているが、上中町には海がなく小浜市には海があるなど状況が異なるので、もう少し研究、他の状況を見て石川県でも一昨年から実施されているので、こちらも参考にして万全の態勢をとった上でやるようにしていきたい。

来年度は、可能な場所については地上からの散布を検討していきたいと思っている。

Q 公共下水道について

市の行政が、予算に基づき正しく執行され行政効果を得ることができたらどうかを審査する決算特別委員会が設置され、昭和五十七年度小浜市一般会計歳入歳出決算をはじめ八つの会計の歳入歳

決算特別委員会

市の行政が、予算に基づき正しく執行され行政効果を得ることができたらどうかを審査する決算特別委員会が設置され、昭和五十七年度小浜市一般会計歳入歳出決算をはじめ八つの会計の歳入歳

出決算を委員会に付託・閉会中の継続審査とした。

(委員は次のとおりです)

委員長 今島 寿夫
副委員長 山藤 貞雄
委員 村上 一司
" 松尾 剛
" 石橋 和彦
" 小川 多嘉士
" 松崎 茂明
" 伊勢 謙次郎

Q 五十年度に基本計画が作成され、五百二十五ヘクタールの内庫補助事業で採択されたが、その内小浜地区いわゆる南川から西部(南部処理地区)までの約二百十七ヘクタールを六十七年までかけて整備をしたいと考えて認可を得る作業を進めている。

五十八年度中には日吉橋から津島までのボーリング調査、十カ所から十三カ所に十の穴をあけ調査をしたい。

Q 保育料の是正について

A 厚生省基準の一年おくれ、これが基本基準で事務的な手続・審議会なども開催しながら二割を目標に厚生省基準の一年おくれ、それを超えない額を目安に是正をしていきたい。

Q 堅海トンネルについて

A この事業は全体事業費で十億八千万円、延長が八百六十メートル(トンネル部分が四百六十メートル)で五十七年度から用地補償費が予算化され五十八年度についても若狭側から残りの用地取得を行なっている。

五十八年度は三千万円の予算がついているが取りつけ道路を整備するだけでも一億二千万円かかるが今年度の予算が三千万円、建設省の基本方針がゼロ・シーリング、マイナス・シーリングということでありますが五十九年度にトンネルにかかっていただけのよう県退出の国会議員・県当局に訴えていきたい。

市民の皆さんから九月・十二月議会に次の三件の請願・陳情が、それぞれ所管の常任委員会会で審査がなされました。

採 択

請願第一号 国立病院・療養所の廃止や地方移管・民営化・現場業務の民間下請けに反対し、医療従事者の大幅増員を求める請願(提出者 山口 功外一名)

陳情第三号 公共住宅宅地造成の推進について(提出者 岡本 等外三名)

陳情第四号 小浜第一中学校第二体育館建設について(提出者 小浜第一中学校PTA会長 松尾 剛外十名)

継続審査

陳情第五号 医療保険制度の改正に関する陳情(提出者 宮川 緑夫)

「おばま市議会だより」も今回の発行で二十回を見え、いまま一度市議会だよりを見直す意味から市民の皆さんからの忌憚なき御意見をお聞かせ下さい。

編集後記



「おばま市議会だより」も今回の発行で二十回を見え、いまま一度市議会だよりを見直す意味から市民の皆さんからの忌憚なき御意見をお聞かせ下さい。

「おばま市議会だより」も今回の発行で二十回を見え、いまま一度市議会だよりを見直す意味から市民の皆さんからの忌憚なき御意見をお聞かせ下さい。